

概要版

香川県

がん教育の 手引き

香川県がん教育推進委員会



香川県がん教育の手引き

はじめに

I 学校におけるがん教育の推進の必要性

1 がん教育の必要性	01
2 がんの現状	02
3 がん教育に関する課題の対応についての考え方	03

II 学校におけるがん教育の基本的な考え方

1 学校におけるがん教育の目標	04
2 発達段階に応じた指導のあり方	05

III 学習指導要領に関する資料

1 がん教育と保健学習内容の系統性	07
2 特別活動・学級活動におけるがん教育の関連性	08
3 高等学校保健体育編・体育編におけるがん教育の関連性	09
4 各教科とがん教育の関連性	10

IV 学校におけるがん教育の進め方

1 香川県版がん教育プログラムの特徴	13
2 指導の内容	14
3 教材の構成	14
4 がん教育の指導計画及び指導体制	15
5 実施に向けた手順	16
6 教材の活用の留意事項	18
7 家庭・地域社会との連携	18
8 正しい情報収集と相談機関の活用	19

V 香川県がん対策ホームページに掲載されている教材の概要

がん教育教材の概要	20
-----------	----

VI 香川県がん教育プログラム検討の経過

1 香川県がん教育プログラム検討会の設置	22
2 香川県がん教育推進委員会の設置	26

学校における がん教育の推進の必要性

1 がん教育の必要性

健康について子どもの頃から教育することは重要であり、学校においては健康の保持増進と疾病予防の観点から、健康教育が行われてきました。現在「がん」については、生活習慣に起因することが多いことを学習していますが、「がん」そのものや、がん患者に対する理解を深める内容には至っていません。子どもだからこそ「がん」に対してマイナスの印象があると、やがて成人期には「がんは不治の病」という誤解や偏見につながってしまう可能性があります。

そのため、児童生徒は、学習活動を通して「がん」について正しい知識を学び、がんを予防するために自分たちができることを考え、実践できる能力を培い、「いのち」の大切さや身近ながん患者やその家族に対する思いやりの気持ちを育成する必要があります。

香川県では平成23年10月、がん対策を総合的に推進することを目的に議員提案による「香川県がん対策推進条例」（平成23年香川県条例第34号）が制定されました。条例の第14条に、「がん教育の推進」を定められています。

そこで、香川県では県教育委員会と連携を図り、香川県小・中・高等学校教育研究会の協力のもと、学校におけるがん教育の推進を図っていくこととなりました。

香川県がん対策推進条例（がん教育の推進）第14条

県は、学校関係者、保健医療関係者及び関係団体等と連携し、児童及び生徒が学習活動を通じてがんに対する理解及びがんの予防に関する知識を深めるために必要な施策を実施するよう努めるものとする。

第2次香川県がん対策推進計画

香川県では、平成25年3月に「第2次香川県がん対策推進計画」を策定し、教育現場におけるがん教育を推進することとし、平成29年度までにすべての中学校でがん教育を実施することを目標としています。

がん対策推進基本計画

国においては、平成24年3月に策定された「がん対策推進基本計画」に、分野別施策として「がん教育・普及啓発」が新しく盛り込まれ、健康と命の大切さについて学び、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つよう教育することを目標としています。

2 がんの現状

1 生涯でがんと診断される確率は2人に1人

日本人の2人に1人は、生涯のうちに何らかのがんにかかると予測されており、がんは全ての人にとって身近な病気と言えます。

平成24年度香川県県政世論調査によると、本人（回答者）を含め、家族、親戚や親しい同僚などの身近な人でがんにかかった人が「いる」と答えた割合は8割を超えています。

2 香川県の死因1位は「がん」

昭和52年以降、他の疾病を大きく引き離して着実に増加しており、現在は年間約3,000人ががんで死亡しています。また、総死亡に占めるがんによる死亡の割合は、男性では50歳代から、女性では40歳代から高くなっており、特に50歳代は56.3%（平成24年）と半数以上の方ががんで亡くなっているなど、児童生徒の保護者世代にとって、がんは重大な疾患となっています。

3 がんは治らないからこわいというイメージが先行

平成24年度香川県県政世論調査によると、がんに対する印象について、「こわい・どちらかといえばこわいと思う」が全世代を通じて8割を超えています。「こわいと思う理由」として、77.5%が「治る確率が低いと思うから」と答えており、「がん=死」という印象から、がんに対する恐怖心が強くなっています。

4 がん対策はがん予防と検診による早期発見・早期治療が重要

がんは、たばこや食生活など生活習慣の改善によってある程度、予防することができる病気です。しかし、それらを心がければすべてがんを予防できるものではなく、生活習慣の改善とともに検診による早期発見・早期治療が重要です。

平成23年香川県民健康・栄養調査によると、84.9%が定期的に検診を受ける必要があると答えていますが、実際の検診受診率は20～30%と目標値の50%には到達しておらず、がんの予防行動が十分に実践されていません。そこで、がんを取り巻く現状や、がんについての科学的根拠に基づく正しい知識を習得することが必要とされています。

3 がん教育に関する課題の対応についての考え方

がん教育に関する課題の多くは、「がんは不治の病」というマイナスの印象と深くかかわっており、その要因には、がんのことを正しく理解していないことから起こる偏見や誤解が考えられます。

2人に1人が生涯のうちにがんにかかると言われていたことから、児童生徒が家族のがんの罹患を経験することは珍しくありません。そのような状況におけるがん教育の実施は、児童生徒の発達段階を踏まえるとともに、誰もがかかりうる疾患であるという前提で、家庭や地域の状況を把握し、適切に取り組む必要があります。

がん教育は、児童生徒の実態に即した指導の工夫や幅広い視点から適切な指導を行っていくことが必要とされています。

1 児童生徒の保護者ががん患者または、がんによって亡くなっている場合

実施にあたっては、保護者や児童生徒に対してあらかじめ予定されている指導内容を伝え、がん教育の目的の理解を図る必要があります。

授業中は、特に配慮が必要な児童生徒はもちろん、すべての児童生徒の様子を確認しながら進行する必要があり、ゲストティーチャーには配慮が必要な生徒の情報を伝えるなどの事前の打合せを行うことが考えられます。

2 小児がんの既往のある児童生徒が在籍の場合

このがん教育の内容は成人期のがんを対象としています。小児がんは成人期のがんとは成因や種類が大きく異なります。そのことを十分に理解し、小児がんに対する偏見につながらないような配慮が必要です。小児がんの既往のある児童生徒が在籍する場合は、事前に保護者に連絡を行い、指導内容を説明することが望まれます。

3 生活習慣とがんとの関連性について

生活習慣の改善によって、将来がんになる可能性を低くすることができますが、生活習慣以外のさまざまな要因も複雑に関係しており、完全に防げるわけではないことを踏まえ、がん患者に対する偏見につながらないような配慮が必要です。

4 がん検診の正しい理解

がん検診による早期発見・早期治療を推奨していますが、検診によってすべてのがんが見付けられるわけではないことを理解する必要があります。

II

学校における がん教育の基本的な考え方

1 学校におけるがん教育の目標

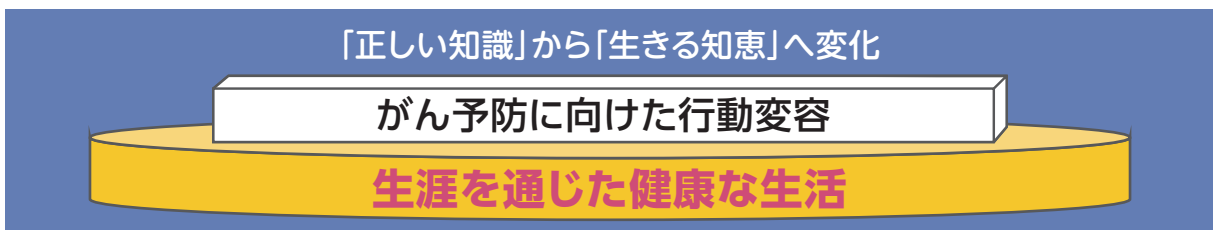
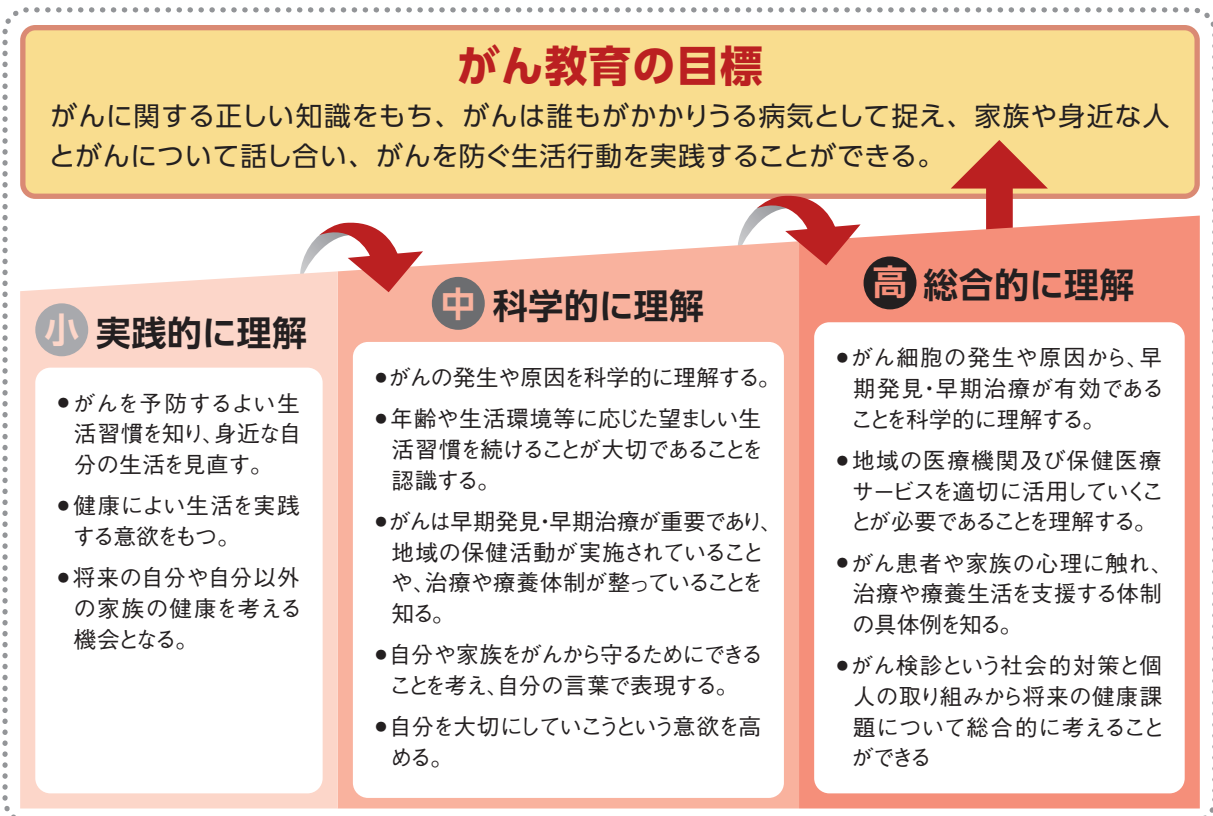
小学校から高等学校までの学習活動を通じて、がんに関する正しい知識をもち、がんは誰もがかかりうる病気として捉え、家族や身近な人とがんについて話し合い、がんを防ぐ生活行動を実践することができる。

- ① がんは身近な病気であることや、がんの発生と原因を科学的に理解する。
- ② がんと生活習慣の関連やその他の原因を理解し、がんを予防する具体的な生活習慣について自分の課題を見付ける。
- ③ 早期発見の有用性と保健・医療制度を知り、適切に活用していくことができる。
- ④ がんの予防や治療、療養生活を支える様々な職種の役割を知る。
- ⑤ がん患者の心や身体の変化を理解し、自分や家族ががん患者となった場合の対応を考えることができる。

2 発達段階に応じたがん教育のあり方

1 全体イメージ

がん教育は、がんというひとつの疾患に特化した指導です。保健学習や保健指導で学んだ知識を児童生徒自身が自分の生活と照らし合わせ、さらに自分の生活に具体化することで、「正しい知識」が「生きる知恵」に変わることをねらいとしています。



2 小学校における指導のあり方

小学校

3年生

自己の生活習慣に関心を持ち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとする時期である。この時期に、毎日を健康に過ごすには、1日の生活リズムに合わせて、調和の取れた食事、適切な運動、休養及び睡眠をとることが必要であることを理解する。

がん教育では、がんを予防するよい生活習慣を知ることによって自分の生活を見直し、健康により生活を実践する意欲をもつことができるようにする。

6年生

自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとする時期である。また、高学年になると、喫煙や飲酒に興味をもつ児童も出てくる。

がん教育では、望ましい生活習慣について確認し、さらに、がんは生活習慣がすべての原因ではなく、その他の原因（病原体、体の抵抗力、環境など）があることを理解する。また、学校の検診と同じように、地域には保健活動としてがんを見つける検診が行われていることを理解する。

それらを理解した上で、毎日の生活習慣を見直し、自分たちができることを考え実践する意欲をもつことができるようにする。さらに将来の自分や自分以外の家族の健康も考えていくことにも触れるようにする。

3 中学校における指導のあり方

中学校

3年生

中学時代は、子どもから大人への過渡期であり、身体的・精神的に変化の激しい時期である。この時期に心身の機能や発達、心の健康について理解を深め、生涯を通じて積極的に健康の保持増進を目指す態度の育成に努めることが大切である。

がん教育では、がんの発生や原因を科学的に理解し、生涯を通じた健康の保持増進には、年齢や生活環境等に応じた望ましい生活習慣を続けることが必要であることを認識する。

また、がんは望ましい生活習慣だけでは予防できない個人の要因や環境、感染などその他の原因があることを理解する。予防できずにがんが発生した場合は、早期に発見することが重要であり、地域の保健活動として様々ながん検診が行われていることを理解する。また、がんの治療や療養生活を支える体制が充実していることを知る。

それらを踏まえ、がんを自分のこととして捉え、自分や家族をがんから守るためにできることを考え、自分の言葉で表現できるようにする。がん教育を通して「いのち」の尊さを学び、自分を大切にすることができる。

4 高等学校における指導のあり方

高等学校

2年生

高校時代は、個人生活及び社会生活における健康・安全について総合的に理解することで、現在及び将来の生活において、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択及び、健康的な社会環境づくりなどが実践できるようになるための基礎としての資質や能力を育成する時期である。

がん教育では、がんの発生や原因から、早期発見・早期治療が有効であることを科学的に理解する。また、地域の医療機関及び保健医療サービスなどを適切に活用していくことが必要であることを理解する。

肺がんになった患者と家族の体験談を通じて、がんの治療や療養生活を支える体制や様々な保健活動や対策などの具体例を知る。その際、がん患者とその家族の心や体の変化に触れ、疾病の症状や有無のみを重視するのではなく、生活の質や生き甲斐を重視した健康のあり方について知る。

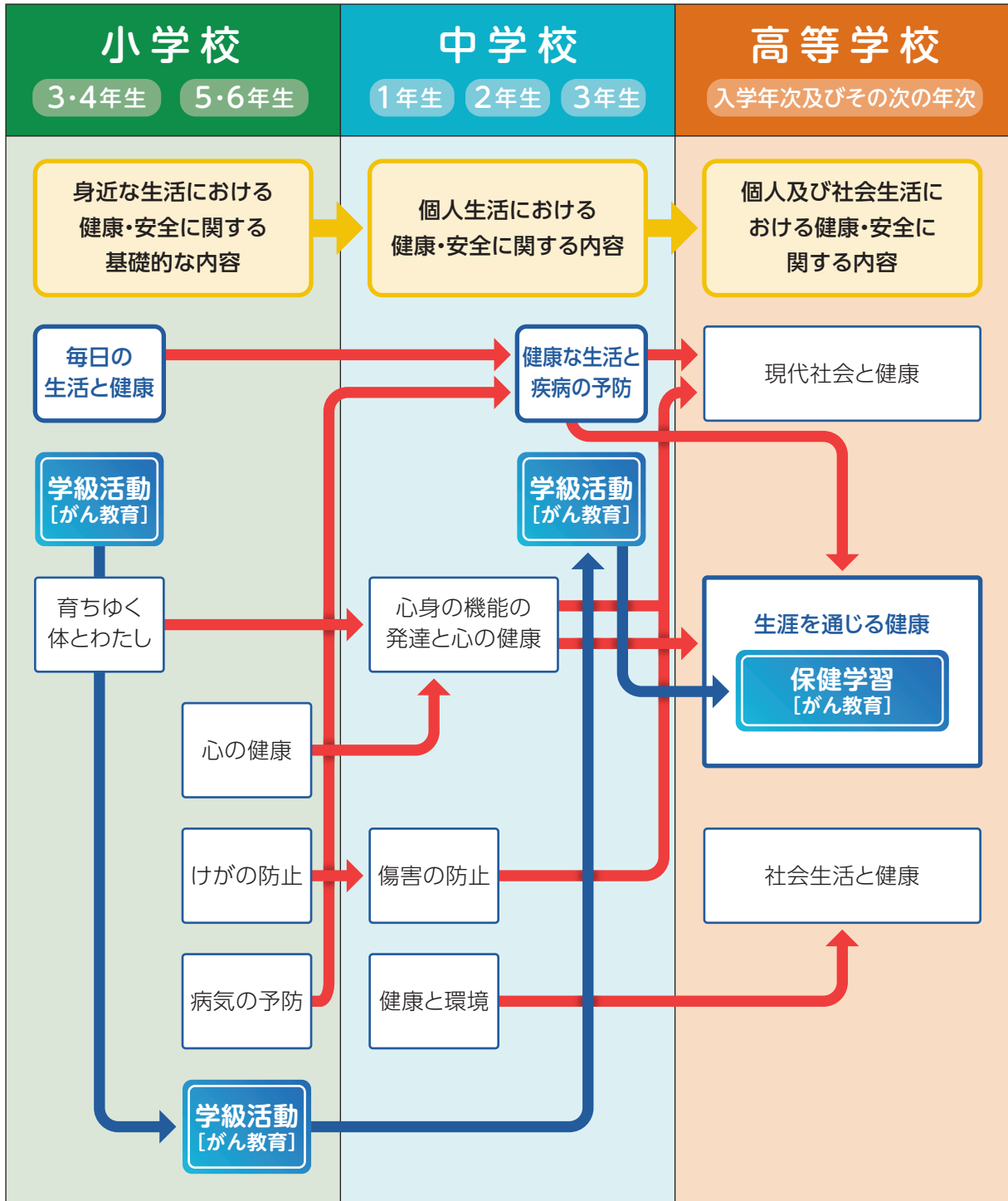
それらを踏まえ、がん検診という社会的対策と検診を受ける個人の取り組みから将来の健康課題について総合的に考えることができるようにする。

Ⅲ

学習指導要領に関する資料

1 がん教育と保健学習内容の系統性

効果的ながん教育を実施するためには、現行の学習指導要領に基づき、小中高等学校の保健学習を踏まえて、がん教育を行う必要があります。



(参考:「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き/文部科学省)

2 特別活動・学級活動におけるがん教育の関連性

1 小学校

小3年生・小6年生：特別活動・学級活動	
目標	学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
内容	3年生 学級を単位として、協力し合って楽しい学級生活をつくとともに、日常生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行う。
	6年生 学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくとともに、日常生活や学習に主体的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行う。
共通	<p>(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全</p> <p>カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成</p> <p>児童が自分の健康状態について、関心をもち、身近な日常生活における健康の問題を自ら見付け、自分で判断し、処理できる能力や態度を育成する。</p>

2 中学校

中3年生：特別活動・学級活動	
目標	学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
内容	<p>(2) 適応と成長及び健康安全</p> <p>人間の諸活動の基礎となる健康安全や食を中心として、現在及び将来において生徒が当面する諸課題に対応するとともに、生徒自ら健全な生活態度や習慣の形成をはかっていく資質や能力を育成する。</p> <p>キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成</p> <p>生徒の学年や発達の段階も踏まえて題材を設定し、身近な視点からこれらの問題を考え意見を交換できるような話し合いや討論、実践力の育成につながるロールプレイングなどの方法を活用して展開していくことが考えられる。こうした活動を通して、自らの健康状態について理解と関心を深め、望ましい生活態度や習慣の形成をはかっていくことが望まれる。</p>

3 高等学校保健体育編・体育編におけるがん教育の関連性

高2年生：保健体育科 科目保健	
目 標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
内 容	<p>(2)生涯を通じる健康</p> <p>生涯の各段階において健康についての課題があり、自らはこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。</p> <p>イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関</p> <p>生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要である。</p>

4 各教科とがん教育の関連性

1 小学校

教科	内容
体育・保健体育科	保健領域：第3学年 (1) 毎日の生活と健康 健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解できるようにする。 ア 心や体の調子が良いなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていること。 イ 毎日を健康に過ごすには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。
	保健領域：第6学年 (3) 病気の予防 病気の予防について理解できるようにする。 ア 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわり合って起こること。 イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。 ウ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。 エ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。 オ 地域では、保健にかかわる様々な活動が行われていること。
家庭科	第5学年 B 日常の食事と調理の基礎 (2) 栄養を考えた食事 ア 体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること。 食事に含まれる栄養素が体の成長や活動のもとになることに関心をもち、栄養を考えて食事をとることの大切さが分かるようにする。
理科	第4学年 B 生命・地球 (1) 人の体のつくりと運動 人や他の動物の体の動きを観察したり資料を活用したりして、骨や筋肉の動きを調べ、人の体のつくりと運動とのかかわりについて考えをもつことができるようにする。
	第5学年 B 生命・地球 (2) 動物の誕生 魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりして、卵の変化の様子や水中の小さな生物を調べ、動物の発生や成長について考えをもつことができるようにする。
	第6学年 B 生命・地球 (1) 人の体のつくりと働き 人や他の動物を観察したり資料を活用したりして、呼吸、消化、排出及び循環の働きを調べ、人や他の動物の体のつくりと働きについて考えをもつことができるようにする。
道徳	第1学年及び第2学年 1 主として自分自身に関すること。 (1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。 (1) 生きることを喜び、生命を大切にすることを。
	第3学年及び第4学年 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。 (1) 生命の尊さを感じ取り、生命のあるものを大切にする。 (2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。
	第5学年及び第6学年 1 主として自分自身に関すること。 (1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。

2 中学校

教科	内容
体育・保健体育科	<p>保健領域：第3学年</p> <p>(4) 健康な生活と疾病の予防 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。</p> <p>ア 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因がかかわり合って発生すること。</p> <p>イ 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。</p> <p>ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。</p> <p>エ 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。</p> <p>オ 健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用することがあること。また、医療費は、正しく利用すること。</p> <p>カ 個人の健康は、健康を保持増進するための社会の取り組みと密接なかわりがあること。</p>
家庭科	<p>第1学年</p> <p>B 食生活と自立</p> <p>(1) 中学生の食生活と栄養</p> <p>ア 自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康によい食習慣について考えること。</p> <p>イ 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について知ること。</p>
理科	<p>第2分野：第3学年</p> <p>(5) 生命の連続性 身近な生物について観察、実験を通して、生物の成長と殖え方、遺伝現象について理解させるとともに、生命の連続性について認識を深める。</p> <p>ア 生物の成長と殖え方</p> <p>イ 遺伝子の規則性と遺伝子</p>
道徳	<p>1 主として自分自身に関すること。</p> <p>(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。</p> <p>3 主として自然や崇高なものとのかわりに関すること。</p> <p>(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</p>

3 高等学校

教科	内容
保健体育	<p>保健：第1学年</p> <p>(1) 現代社会と健康</p> <p>我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。</p> <p>ア 健康の考え方 イ 健康の保持増進と疾病の予防</p>
	<p>保健：第2学年</p> <p>(2) 生涯を通じる健康</p> <p>生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。</p> <p>ア 生涯の各段階における健康 イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 (ア) 我が国の保健・医療制度 (イ) 地域の保健・医療機関の活用 ウ 様々な保健活動や対策</p>
家庭	<p>家庭基礎：第1学年・第2学年</p> <p>(2) 生活の自立及び消費と環境</p> <p>ア 食事と健康</p>
理科	<p>生物基礎：第1学年</p> <p>(1) 生物と遺伝子</p> <p>生物と遺伝子について観察、実験などを通して探求し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解させ、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けさせる。</p> <p>イ 遺伝子とその働き</p> <p>(2) 生物の体内環境の維持</p> <p>生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探求し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識させる。</p> <p>ア 生物の体内環境</p>
	<p>理科「生物」：第2学年・第3学年</p> <p>(1) 生命現象と物質</p> <p>生命現象を支える物質の働きについて観察、実験などを通して探求し、たんぱく質や核酸などの物質の働きを理解させ、生命現象を分子レベルでとらえさせる。</p> <p>ウ 遺伝情報の発現</p>

IV

学校における がん教育の進め方

1 香川県版がん教育プログラムの特徴

1 小・中・高等学校積み上げ型プログラム

小学校では3年生と6年生を対象とし、学級活動として位置付け、3年生ではがんという疾患を通じて、健康の大切さを認識させます。6年生は、がんの原因などから生活習慣の課題を見付け、健康で安全な生活態度の形成を図ることを目的とした内容としています。中学校では3年生の学級活動として位置付け、がんの予防や早期発見の有用性、さらに治療に関することを学び、望ましい生活態度や習慣の形成を図ることを目的とします。各学校・学年とも保健学習との関連をもたせた教材と指導内容になっています。高等学校では2年生を対象とし、保健体育科(科目保健)に位置付け、がん対策に関する保健・医療制度を学びます。さらに、がん患者と家族の体験談を通じて患者への理解を深め、生涯を通じた自己の健康を管理する能力を育成することを目的とした内容としています。

2 1時間完結型授業

発達段階に応じ、医学用語を適切に表現した教材を用い、がんの正しい知識を1時間で学習します。中学校のプログラムは、専門家を派遣し学級担任とのチームティーチングによる授業としています。

また、家庭との連携を目的に授業参観としての実施や、患者体験談による「いのちの授業」としても展開できます。

3 自分のこととして考える学習内容

統計的な視点から香川県の現状を学び、がんは身近な健康課題であることを確認します。自分自身の生活習慣に関心を持ち、がんを予防するために、自分ができることを主体的に考え、さらに大切な人の命を守るためにできることを考える学習内容としています。

4 親世代への検診受診アクション

学習を通じて学んだことを自分の言葉として家族に伝えることにより、家庭内の意識向上を期待し、健康課題に取り組む実践力を培います。家庭や地域社会でお互いに手をたずさえ、がんと向かい合う香川県の実現を目指します。

2 指導の内容

- ① がんに関する正しい知識の普及
- ② がん予防のための生活習慣の改善
- ③ 早期発見、早期治療の大切さ
- ④ 地域の保健・医療体制を知る
- ⑤ 命の大切さを学ぶ
- ⑥ がん医療やがん対策にかかわる専門職の役割
- ⑦ 家庭で取り組むがん予防

3 教材の構成

	視聴覚教材		補助教材		
			ワークシート	事前事後アンケート	その他
小学校	3年生	紙芝居 「ガンダーをやっつけろ!」	○	○	板書用掲示物
	6年生	スライドショー 「がん博士になろう! がんのひみつ」	○	○	板書用掲示物
中学校	スライドショー 「科学的ながんの知識 がんちゃんと学ぼう」 DVD 「がんちゃんの冒険」 (日本対がん協会)		○	○	板書用掲示物
高等学校	DVD 「保健サービスの活用 ～がん検診の大切さを考える～」		○	○	生徒用資料

4 がん教育の指導計画及び指導体制

1 指導計画作成について

がん教育を効果的、円滑に実施するためには、年度当初から年間計画の中に位置付けておく必要があります。年間計画には、実施する学年における具体的な指導計画の内容や関連事項、さらに家庭や地域社会との連携についても計画しておく必要があります。

2 指導体制について

がん教育を適切かつ円滑に進めるためには、全教職員の共通理解を得て、適切な指導体制を整える必要があります。学校においては、その規模や実態に応じた役割分担を行うとともに、相互の連携・協力を図ることが必要です。実施にあたっては、児童生徒のがんに関する知識や意識の観察を行い、家庭や地域関係機関などからの情報等を収集・把握することも必要です。教職員の理解や情報の共有を図るためには、がん教育に関する研修会への参加、研究協議の場や機会を設定するなどが考えられます。

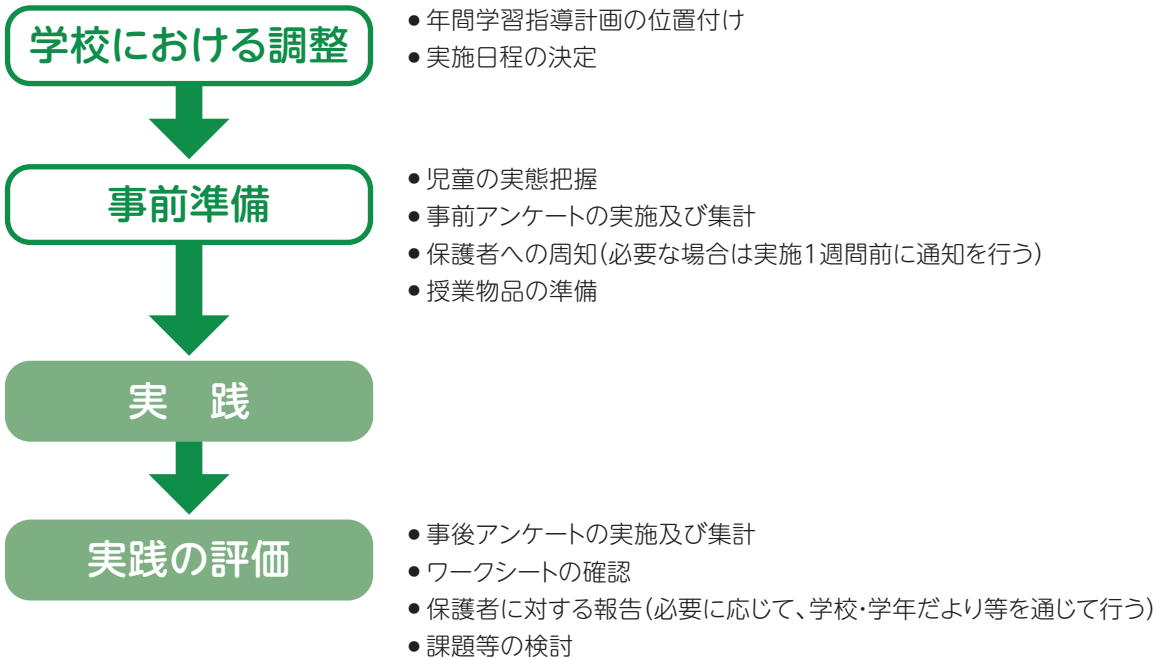
教職員が共通理解を図る事項

- 1 がん教育の意義や目標
- 2 児童生徒のがんに関する知識や意識
- 3 家庭や地域関係者などの情報
- 4 学校保健の目標及び目標との関連事項
- 5 がん教育の指導学年における指導計画の内容や関連
- 6 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間との関連
- 7 指導組織と各教職員の役割
- 8 家庭、地域との連携の進め方

5 実施に向けた手順

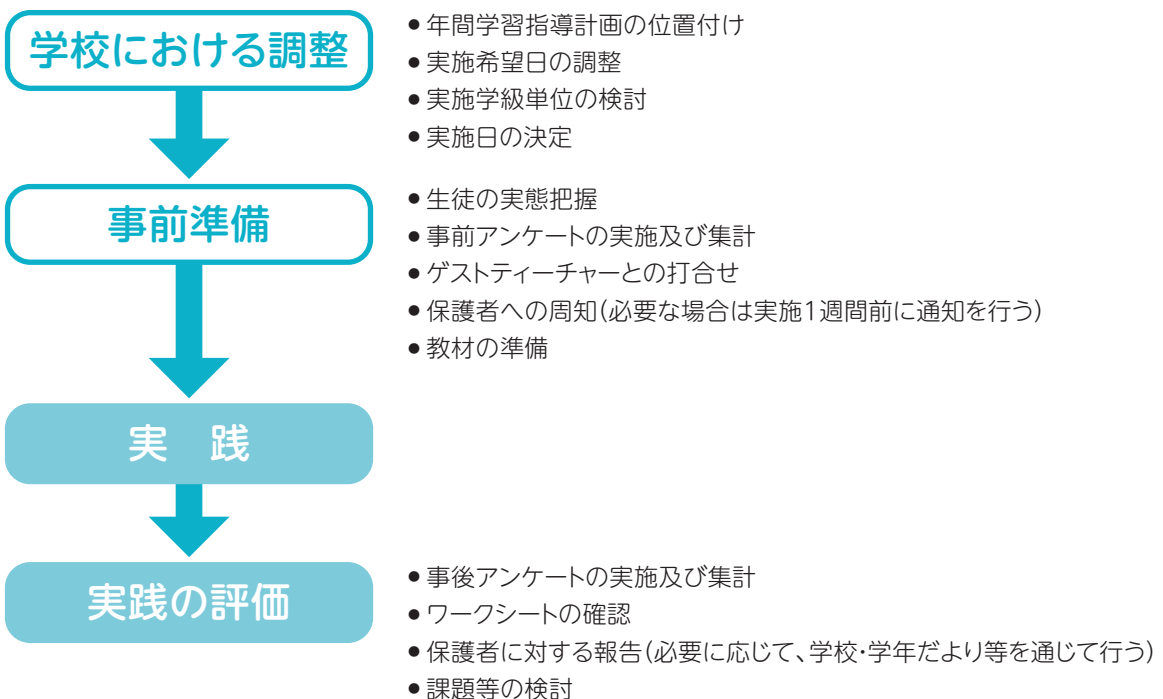
1 小学校

小学校におけるがん教育を実施するためには、年間学習指導計画に位置付け、児童の実態把握や指導体制の調整など、それぞれの学校の状況を踏まえた手順で行う必要があります。



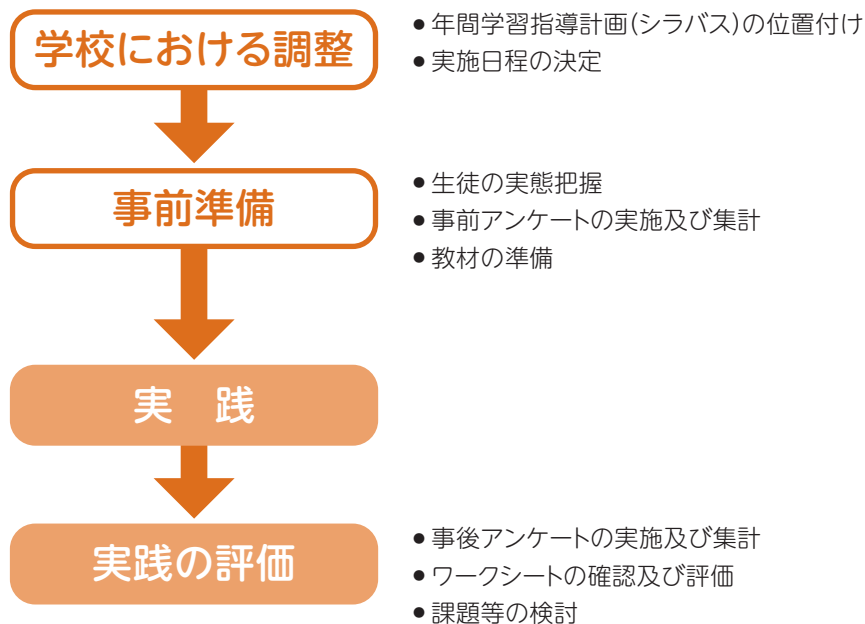
2 中学校

中学校については、年間学習指導計画に位置付け、生徒の実態把握や指導体制を検討し、実施希望日等の調整を行います。実施日について所定の手続きに従い日程調整を行います。



3 高等学校

高等学校におけるがん教育を実施するためには、保健体育科科目保健の年間学習指導計画(シラバス)に位置付け、事前に生徒の実態把握を行い実施します。



6 教材活用の留意事項

1 教材の取扱いについて

香川県版がん教育プログラムに基づく各種教材は、専門家の意見を踏まえ、科学的根拠に基づく指導内容としています。紙芝居やスライド等の順番の入れ替えや削除は教育そのものの目的に影響を与える恐れがあるため控えて下さい。

ただし、児童生徒の家庭等の実態により指導内容の調整が必要であると判断した場合は、スライド等のねらいに影響しない範囲で変更することは可能です。

2 授業者のがん治療体験等について

実施にあたって、授業者のがん治療体験等を取り入れることは、わかりやすい授業を展開するために有効な手段と言えますが、一方で個人的な体験談や感想は、科学的根拠に乏しい場合があることから授業への活用については慎重に行うべきです。

7 家庭・地域社会との連携

がん教育の目標とすべき姿を達成するには、学校と家庭の相互の連携が大切です。学級・学年・学校通信等の活用や授業参観の計画によって保護者の理解を促し、がんを防ぐ生活習慣を家庭全体で取り組むことができるように働きかけることが重要です。

1 (地域)学校保健委員会の活用

がんの予防をきっかけとし、健康づくりを推進するために、異校種間の連携や学校・家庭・地域と関係機関の連携を図り、(地域)学校保健委員会を活用することが必要であると考えられます。

8 正しい情報収集と相談機関の活用

1 がんに関する正しい情報収集

本教材は、専門家のご指導のもと、最新の情報を参考に作成しています。しかし現在、がん予防に関する疫学研究やその他様々ながんに関する研究が進められていることから、今後、新しい情報が更新されることが予測されます。常に最新の正しい情報収集と活用が必要とされています。新しい情報やそれによる指導内容の変更については、適宜「香川県がん対策ホームページ・がん教育」の項目に情報を提供していきませんが、下記の情報検索先も参考にして下さい。

香川県がん対策ホームページ

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkosomu/cancer>

国立がん研究センター がん対策情報センター情報サービス

<http://ganjoho.jp/public/index.html>

小児がんについて 冊子「小児がんシリーズ」を参照

http://ganjoho.jp/public/qa_links/brochure/child.html

生活習慣改善によるがん予防法の開発に関する研究

http://epi.ncc.go.jp/cgi-bin/cms/public/index.cgi/nccepi/can_prev/outcome/index

2 相談機関の活用

がん教育の実施に関するお問合せは、下記までご連絡下さい。

香川県庁健康福祉総務課 がん糖尿病対策・健康づくりグループ

電話 087-832-3261

がん医療に関するお問合せは、下記までご連絡下さい。

香川大学医学部附属病院 がん診療相談支援室

電話 087-891-2473 (直通)

香川県がん対策ホームページに掲載されている教材の概要

がん教育教材の概要

小学校

- 第3学年** ①紙芝居「ガンダーをやっつけろ!」
 ②補助教材 ③ワークシート ④事前事後アンケート
- 第6学年** ①スライドショー「がん博士になろう! がんのひみつ」
 ②補助教材 ③ワークシート ④事前事後アンケート

- 項目**
- がんは身近な病気
 - 香川県のがんの現状
 - がん細胞について
 - がん細胞の増殖のしくみ
 - がんの原因
 - がんにならない生活習慣
 - がん検診と必要性
 - がん予防のために自分ができること

小学校3年生教材 紙芝居「ガンダーをやっつけろ!」



小学校6年生教材 スライドショー「がん博士になろう! がんのひみつ」

がん博士になろう!

香川県

がんのひみつ

がん博士クイズ ①

日本人の5人に1人はがんになる。

✕

日本人の2人に1人はがんになる。

がん博士イメージキャラクター ソウキくん

香川県では、どのようながんで亡くなった人がいるでしょう

香川県

肺がん	674人	1位 肺
胃がん	437人	2位 胃
大腸がん	362人	3位 大腸
肝臓がん	272人	4位 肝臓

出典：厚生労働省「平成26年人口動態統計」

中学校

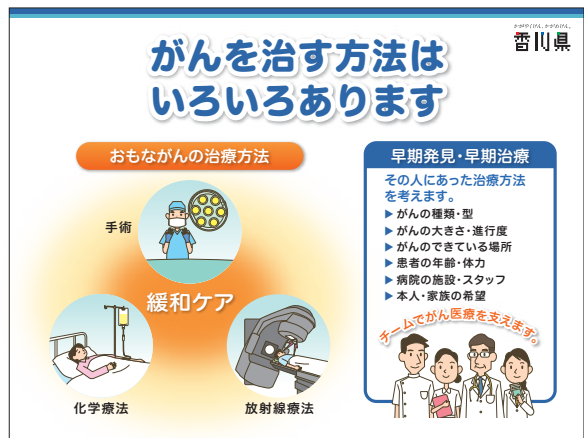
第3学年

- ①スライドショー「科学的ながんの知識 がんちゃんと学ぼう」
- ②DVD がんちゃんの冒険（日本対がん協会）
- ③補助教材 ④ワークシート ④事前事後アンケート

項目

- がんは身近な病気
- 香川県のがんの現状
- がん細胞について
- がん細胞ががんになるしくみ
- がんの原因
- がんの発見と早期治療について
- がんの治療
- がんの予防のためにできること
- がん患者体験談

中学校教材 スライドショー「科学的ながんの知識 がんちゃんと学ぼう」



高等学校

第2学年

- ①DVD 保健サービスの活用～がん検診の大切さを考える～
- ②ワークシート ③事前事後アンケート

項目

- 統計からみるがんの現状
- 香川県のがんの現状
- がん細胞が生まれるしくみ
- がん細胞の成長と発見について
- 市町が提供するがん検診について
- 肺がんの治療を受けた家族の物語

高等学校教材 DVD「保健サービスの活用～がん検診の大切さを考える～」

生涯を通じる健康 香川県

がん罹患する確率 [全国]

生涯でがん罹患する確率は、男性62%(2人に1人)、女性46%(2人に1人)

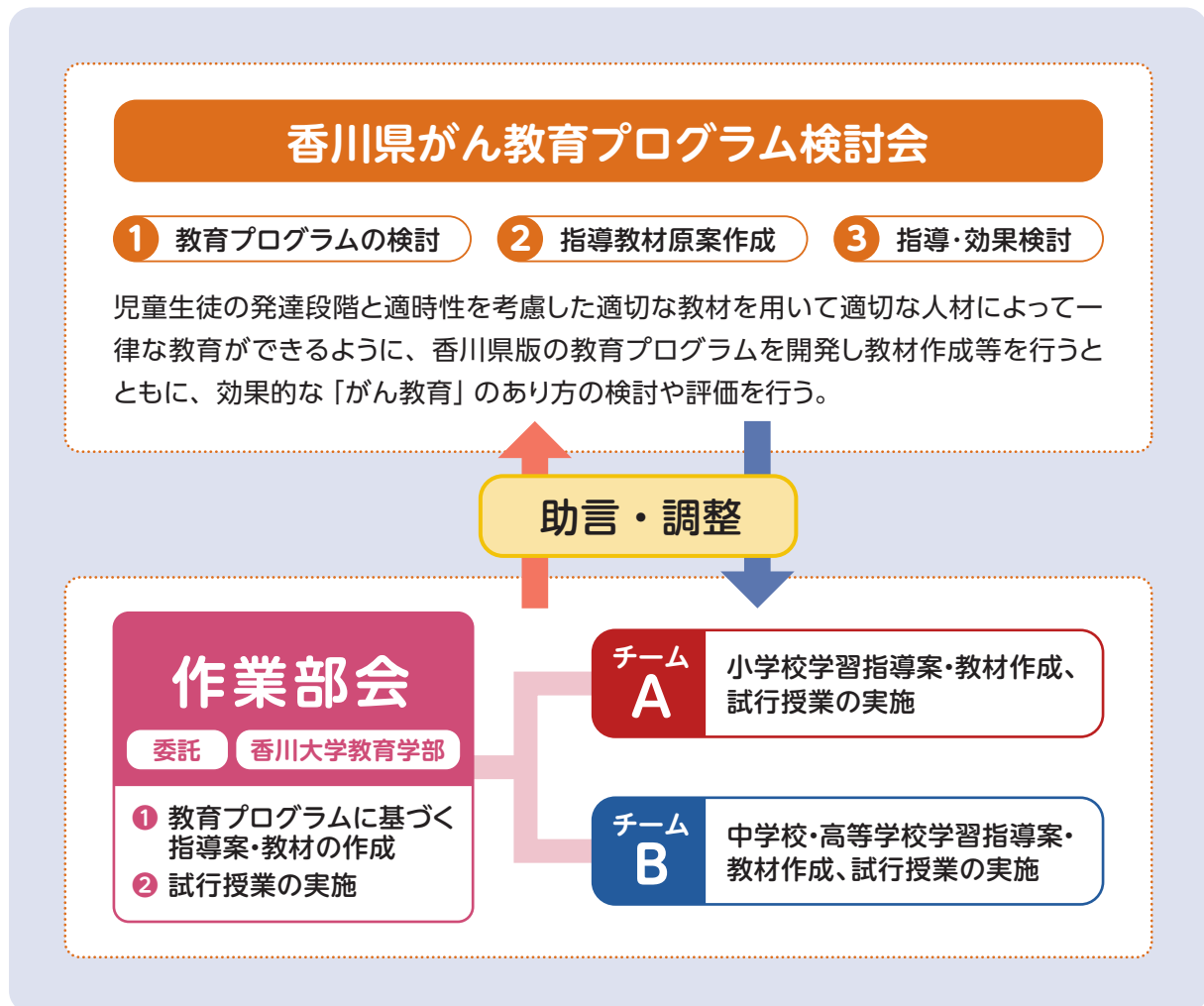
部位	生涯がん罹患リスク		何人に一人か	
	男性	女性	男性	女性
全体	62%	46%	2人	2人
胃	11%	6%	9人	18人
大腸	9%	7%	11人	14人
肝臓	4%	2%	27人	50人
肺	10%	5%	10人	21人
乳房(女性)		9%		12人
子宮頸部		1%		74人

出典：国立がん研究センター 業種罹患リスク(2011年データ)



1 香川県がん教育プログラム検討会の設置

平成23年12月に、医療・教育・行政の関係者、がん患者等で構成する「香川県がん教育プログラム検討会」を立ち上げ、がん教育のあり方について検討を行いました。検討会では、小・中・高の教員や香川大学教育学部の関係者等で構成する作業部会を設け、発達段階に応じた到達目標の設定や教材・学習指導案の作成を行うとともに、がん教育を進めるための研修会の開催や公開授業・試行授業等を通じて、がん教育の実践に向けた検討を行いました。



1 香川県がん教育プログラム検討会

平成26年3月現在

	氏名	所属	
1	池本 美智代	香川県立中央病院(香川県放射線技師会)	
2	大西 えい子	香川大学教育学部	
3	岡野 愛子	高松赤十字病院(香川県薬剤師会)	
4	白川 律子	三豊総合病院(香川県看護協会)	
5	池田 信子	香川県在宅保健師会	
6	十枝 めぐみ	綾川町国民健康保険綾上診療所(学校医代表者)	
7	中野 正行	日本細胞検査士会香川県支部	
8	中村 桂井子	がんの子どもを守る会香川支部(香川県内がん患者団体)	
9	徳重 貴子	高松市保健所保健センター	
10	二島 多恵	香川がん患者おしゃべり会(香川県内がん患者団体)	
11	西谷 美鈴	香川県教育委員会保健体育課	
12	西田 智子	香川大学教育学部	
13	藤川 美智子	高松市民病院(香川県栄養士会)	
14	三野 八重子	香川県PTA連絡協議会	
15	吉澤 潔	高松赤十字病院	会長

オブザーバー

1	岡野 由佳	香川県国保連合会
2	藤田 純子	香川県総合健診協会
3	小倉 永子	小豆総合事務所
4	飯原 茂生	東讃保健福祉事務所
5	橋本 真澄	中讃保健福祉事務所
6	細谷 キヨミ	西讃保健福祉事務所
7	河原 俊巳	高松市立弦打小学校(香川県小学校教育研究会学校保健部会長)
8	小野坂 寧晃	高松市立古高松中学校(香川県中学校体育連盟部活動研究部副部会長)
9	小坂 真智子	香川県立香川中央高等学校(香川県高等学校教育研修会保健体育部会保健養護部会長)

2 作業部会

平成26年3月現在

	氏名	所属
1	塩田 悦子	高松市立亀阜小学校
2	吉原 由利子	高松市立木太小学校
3	宮脇 貴子	高松市立屋島小学校
4	中井 真弓	さぬき市立長尾中学校
5	塩田 崇世	高松市立桜町中学校
6	柳谷 貴子	香川県立高松西高等学校
7	中矢 晃子	香川大学医学部附属病院がん診療相談支援室

3 香川県がん教育プログラム検討会の開催

日にち	検討内容
23.12.3 第1回	<ul style="list-style-type: none"> ① 先進事例検証 <ul style="list-style-type: none"> 講演 小学校で患者たちが語る～いのちの授業～ 講師 がんサポートかごしま 三好綾先生 ② 香川県がん教育プログラム概要
24.1.21 第2回	<ul style="list-style-type: none"> ① がん教育取組みアンケート結果報告 ② 県内小学校の取組み報告 <ul style="list-style-type: none"> 講師 綾川町国民健康保険診療所 十枝めぐみ先生 ③ がん教育プログラム素案の検討 (教育目標、対象学年、教育上の配慮、授業の位置づけ等)
24.3.17 第3回	<ul style="list-style-type: none"> ① 先進事例検証 <ul style="list-style-type: none"> 講演 小学校におけるがん教育～3年間の軌跡と展望～ 講師 国立がん研究センター 片野田耕太先生 ② 各小・中・高等学校における教育目標と指導内容の検討
24.6.23 第4回	<ul style="list-style-type: none"> ① 香川大学教育学部附属高松中学校 公開授業の開催(24.6.22) <ul style="list-style-type: none"> 講師 東京大学医学部附属病院 中川恵一先生 ② 各小・中・高等学校における教育目標と指導内容の検討 <ul style="list-style-type: none"> 助言者 東京大学医学部附属病院 中川恵一先生
24.10.27 第5回	<ul style="list-style-type: none"> ① 各小・中・高等学校教材の検討 ② がん教育試行授業に向けての課題検討
25.3.2 第6回	<ul style="list-style-type: none"> ① 各小・中・高等学校教材の検討 ② がん教育試行授業報告と検証 ③ 今後の課題と推進の展開について検討

4 香川県がん教育プログラム検討会作業部会開催及び試行授業の実施

日にち	検討内容
24.8.6 第1回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ① 香川県がん教育プログラム概要について <ul style="list-style-type: none"> ・がん教育の目標について ・対象学年、指導者を検討 ② がん教育教材作成案について <ul style="list-style-type: none"> ・子宮頸がんの取扱いについて
24.9.22 第2回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ① がん教育教材作成案について ② がん教育学習指導案について <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連や各対象学年の指導のあり方について ・研究授業に向けてワークシート及び評価のための事前事後アンケートを検討 ・TT方式の検討
24.10.18	香川県中学校教育研究会さぬき・東かがわ支部教科外研究会にて「がんに関する内容」を題材とした研究授業に作業部会員が出席
24.10.24 第3回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ① さぬき市立長尾中学校研究授業報告 <ul style="list-style-type: none"> ・教育上の配慮について ・理解を促す授業展開について ② がん教育教材作成案について ③ がん教育学習指導案について <ul style="list-style-type: none"> ・小学3年生紙芝居の色彩や内容について ・小学6年生スライド内容について ・中学校がん患者の理解を促すためワークシートに体験談を掲載 ・高校生はがん細胞の成り立ちなどを先に指導する
24.11.28 第4回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ① がん教育教材・学習指導案について ② 試行授業実施について <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の単元について ・派遣保健師の資質向上について
24.12.8 第5回 作業部会	<p style="text-align: center;">チームA:小学校のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小学6年生試行授業について <ul style="list-style-type: none"> ・スライド修正や事前事後アンケートとワークシートの検討
24.12.18 小学6年生 試行授業	高松市立亀阜小学校試行授業及び意見交換会
24.12.26 第6回 作業部会	<p style="text-align: center;">チームB:中・高等学校のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中学校試行授業について <ul style="list-style-type: none"> ・スライド修正や事前事後アンケートとワークシートの検討
25.1.11 第7回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ① がん教育教材・学習指導案について ② 試行授業実施について <ul style="list-style-type: none"> ・中学校DVDの活用について ・グループワークについて
25.1.30 中学校 試行授業	高松市立桜町中学校試行授業及び意見交換会
25.2.13 小学3年生 試行授業	高松市立木太小学校試行授業及び意見交換会
25.2.18 第8回 作業部会	<p style="text-align: center;">チームB:中・高等学校のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中学校教材及び学習指導案の修正について
25.3.6 高等学校 試行授業	香川県立高松西高等学校試行授業及び意見交換会
25.3.19 第9回 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ① がん教育教材及び学習指導案の修正について ② がん教育の手引書案について

2 香川県がん教育推進委員会の設置

香川県がん教育プログラム検討会は、24年度末に香川県版がん教育プログラムの完成をもって閉会しました。25年度からは新たに、香川県がん教育推進委員会を設置し、がん教育の本格実施に向けて円滑な導入を図ることを目的に、香川県版がん教育プログラムを活用した指導のあり方等の検討を行います。下部組織として小委員会を設置、各教材活用に関する助言やモデル授業の実践及び評価等を行っています。

1 香川県がん教育推進委員会

平成26年3月現在

	氏名	所属
1	池田 信子	香川県在宅保健師会
2	大西 えい子	香川大学教育学部
3	大山 富美江	香川県教育委員会保健体育課
4	石井 孝規	三豊市立和光中学校(香川県中学校教育研究会学校保健部会長)
5	河原 俊巳	高松市立弦打小学校(香川県小学校教育研究会学校保健部会長)
6	小坂 真智子	香川県立香川中央高等学校(香川県高等学校教育研修会保健体育部会保健養護部会長)
7	徳重 貴子	高松市保健所保健センター
8	中矢 晃子	香川大学医学部附属病院 がん診療相談支援室
9	西田 智子	香川大学教育学部
10	三野 八重子	香川県PTA連絡協議会
11	吉澤 潔	高松赤十字病院 会長

オブザーバー

1	岡野 由佳	香川県国保連合会
2	藤田 純子	香川県総合健診協会
3	筒井 知子	小豆総合事務所
4	植村 明	東讃保健福祉事務所
5	橋本 真澄	中讃保健福祉事務所
6	細谷 キヨミ	西讃保健福祉事務所

2 小委員会

平成26年3月現在

	氏名	所属
1	塩田 悦子	高松市立亀阜小学校
2	吉原 由利子	高松市立木太小学校
3	宮脇 貴子	高松市立屋島小学校
4	豊島 竹志	高松市立川東小学校
5	田所 大和	高松市立亀阜小学校
6	中井 真弓	さぬき市立長尾中学校
7	塩田 崇世	高松市立桜町中学校
8	柳谷 貴子	香川県立高松西高等学校

VI

香川県がん教育の手引き(概要版)

————— 平成28年3月発行 —————

香川県がん教育推進委員会事務局

香川県健康福祉部健康福祉総務課

TEL 087-832-3261

無断複写・転載を禁じます。



香川県がん征圧イメージキャラクター
ソウキくん